

Heart Letter Vol.02

大動脈瘤

今回は第一号ということでHeart Letter創刊のコンセプトをお話させていただきました。この手紙を読む事で患者さんの不安が少しでも軽減すればと願っております。

さてさっそくですが、今回は大動脈瘤に対する最新の治療とその治療を実際に受けられた患者さんの思いを中心に書かせていただこうと思います。

大動脈瘤(だいどうみゃくりゅう)

大動脈瘤は、大動脈の壁が弱くなり、一部が異常に膨らんでしまう病気です。大動脈は体内で最も大きな動脈で、心臓から全身に血液を運ぶ重要な役割を果たします。そのため、大動脈瘤が破裂すると致命的な出血を引き起こす可能性があります。大動脈瘤はほとんど自覚症状がなく、症状があった場合は破裂していることが多く、その際の救命率はかなり低いと言われています。



大動脈瘤の治療

治療は大きく分けると、外科的手術とステントグラフト内挿術の二つに分けられます。それぞれ利点、欠点はありますが、簡単に説明すると前者は切る手術で後者は切らない手術ということになります。

治療の特徴を考えると体に負担の少ないステントグラフト内挿術が良いと思われるかもしれませんが、この治療ができる動脈瘤は限られています。しかし技術革新に伴いステントグラフトで治療可能な動脈瘤は増えてきているのが現状で、当院ではもともとの生活の質を落とさずに治療するという事を目標に患者さんの年齢や体力、動脈瘤の形態など個々の状態に合わせた治療を提供しております。

大動脈瘤

今回のパートナー

腹痛精査のCTで偶然に胸部大動脈瘤が見つかったTさん(77歳、男性)です。
体に負担の少ないステントグラフト内挿術を無事乗り越えられたTさんにお話を伺いました。

Q 術後痛みの程度はいかがでしたか？

Tさん「手術後の痛みはほとんどない状態でした。次の日から立ったり、歩いたり、ご飯を食べたりすることができました。」

Q 退院後日常生活で何か影響はありますか？

Tさん「以前とほとんど変わりません。今は一日一万歩歩いています。」

Q 今回の入院に対して何か不安に思うことはありましたか？

Tさん「術後は少し不安がありましたが、経過が良かったので、今は安心して日常生活を送っています。」

Q 同様の手術を受けられる、受けた患者さんに何かメッセージはありますか？

医療スタッフに感謝しかありません
一生 忘れません。おかげさまでご迷惑もありません。
安心して手術を受けて下さい。

Q 最後にコメントをお願いします。

Tさん「自分が胸部大動脈瘤であると言われた時は聞いた事もないのでびっくりしました。手術も皆さん医療スタッフに親切にいただき、傷も残らず痛みもなくいつもと変わらない日常を送ることができています。助かりました。シルバーワークとして公園管理をしていたので早く仕事がしたくてうずうずしています。」

最後に

ステントグラフト内挿術は皆さんにとって耳馴染みのない言葉と思いますが、体への負担はかなり少なく、ほとんどの患者さんが術前と変わらない状態で日常生活を送られております。一言で手術と言っても現在では様々な手術方法があるため、今回のお話が皆さんにとって参考になれば幸いです。

スタッフ一同Tさんの一日でも早い現場復帰を願っております。